

## 「文化芸術白書」の刊行にあたって



コロナ禍で落ち込んでいた県民の文化芸術活動も、県内各地で公演や展覧会、イベント等が徐々に開催されるようになるなど、文化芸術関係者の活動の場や県民の鑑賞の機会は、コロナ前の姿を取り戻しつつあります。

こうした中、県では、コロナ禍で生じた社会変化に対応し、本県の文化芸術の更なる振興と地域の活性化につなげるために、文化財等の多彩な文化資源を活かした交流の拡大や文化芸術を担う人材の育成等、様々な取組を進めています。

昨年度は、県内外の伝統芸能団体が一堂に会する全国規模の催し「地域伝統芸能全国大会」を本県で初めて開催するとともに、AI技術を活用した地域伝統芸能体験コンテンツを来場された多くの方に体験いただくなど、伝統芸能に親しむ機会の創出を図りました。

また、今年9月には、山口きらら博記念公園において文化芸術体験交流イベント「ダンス☆オン☆きらら」を開催し、次代を担う若者と文化芸術団体等との交流の機会を設けるとともに、コロナ禍で減少した文化芸術体験の機会の創出に取り組みました。

一方で、少子化を背景とした学校部活動改革の取組や、情報技術の急速な発展等、文化芸術を取り巻く環境は大きく変化しているため、多様な主体と連携しながら、様々な課題を克服し、やまぐちの文化力を未来へつなぐことが求められています。

このため、県では、山口県文化芸術振興条例に基づき、文化芸術の振興に関する基本的な指針となる「やまぐち文化芸術振興プラン」に沿って、今後も様々な取組を進めてまいります。

この白書は、山口県文化芸術振興条例に基づく年次報告書であり、令和4年度に取り組んだ施策や、令和5年度の計画等について取りまとめたものです。本書を通じて、県民の皆様は文化芸術に関する理解と関心を一層深めていただき、より多くの皆様が、魅力ある充実した文化芸術活動を楽しみ、実践されますようお願いしています。

令和5年(2023年)10月

山口県知事  
村岡 嗣政